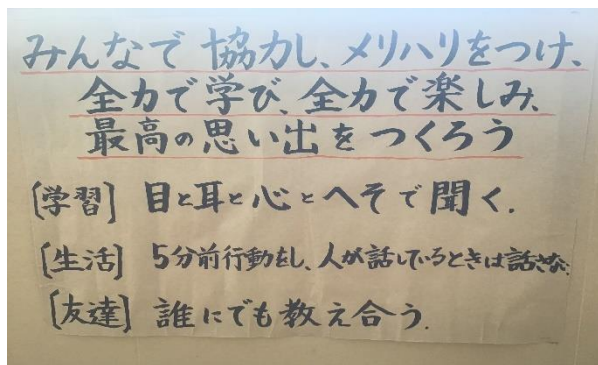




全力で学び全力で楽しみ

11月25日と26日の2日間、6年生と一緒に修学旅行に行きました。出発式でこんな話をしました。

「私は修学旅行に10回行ったけど、毎回新しい発見があります。皆さんも学びの発見と友達の新しい一面も発見してください。」



熊本港を出発したフェリーの中でも、鳥が怖い人、船がちょっと苦手な人などすでに新しい発見がありました。先生たちの中にも、鳥が苦手という人がいたようです。

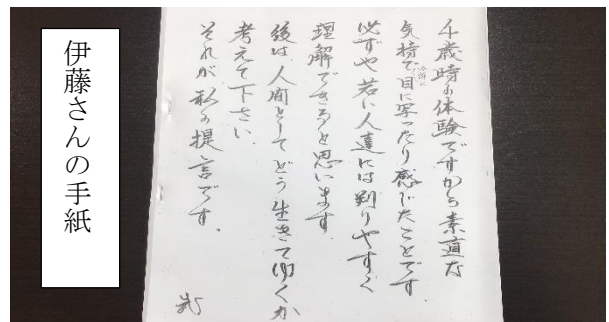


子どもたちは、今回の修学旅行に向けてテーマと目標を決めて取り組みました。特に1日目の平和学習では、集会や語り部さんの講話、フィールドワークなどたくさんの学ぶ機会を得ることができました。

原爆資料館の学習室で、語り部の伊藤武治さんのお話を聞きました。原爆が投下された当日の話から実体験をもとにお話をされました。私は、長崎での講話を聞いたときに、祖父と父母の戦争体験の話思い出します。

戦闘機の機銃掃射に狙われたこと、その戦闘機のパイロットと目が合った気がしたこと、防空壕の中から這い出そうとする弟を必死に止めたこと、家じゅうの鉄製品が国に持って行かれたこと、高いところを飛んでいる爆撃機がキラキラ光っていたこと、おなか一杯にご飯を食べ

ることがなかったことなど、小さい時からよく聞いていました。その頃はあまり深く考えもしなかったのですが、今思うと、日本が70数年も戦争をせずに過ごすことができたのは、二度とこんな思いをしたくない、させたくないという戦争を体験した人しか分からない強い思いがあったからだと思います。



前のお便りで子どもたちの経験不足について取り上げましたが、コロナによる経験不足は子どもたちだけの問題ではありません。それぞれの世代での経験不足があることは事実です。やりたいこともやれずに苦しかった時間は、やらないことに慣れてしまい、やるべきことを避ける傾向を生み出したように思います。「なんで勉強しなくちゃいけないの?」「なんで私がしないといけないの?」こんな言葉をよく耳にします。この言葉を使う人は、その経験によって自分の人生に様々な価値が加わることに気づいていません。「がんばったね。」とか「やってくれてありがとう。」など周りからの価値づけが無かったのでしょうか。

やりたいことしかやらない人は、周りから疎まれることが多いため自然と攻撃的になります。自分の居場所、利益を守ろうとします。自己の利益、自国の利益のみを追求する最終手段が戦争です。子どもたちが、やるべきことを丁寧にやり、その場に合った適切な正しい判断ができるようにすることが平和を繋ぐ大人の役割だと修学旅行を終えて改めて感じました。

